

しがBiz

キーマンに聞く

県製薬工業協同組合理事長

大北 正人さん (58)

特色ある医薬品づくりと海外展開で販路拡大を目指す
滋賀県製薬工業協同組合の大北理事長



海外販路拡大にも力点

滋賀県内の地場産業で生産額1位の製薬。地場企業で組織する県製薬工業協同組合(甲賀市)は近年、海外への販路拡大にも力を入れていく。大北正人理事長は「日新薬品工業社長」に現状や課題を聞いた。

(糸井則次)

生産額は地場産業で2位の彦根バルブの2倍ほどと抜きんでいる。

「2013年の数字だが496億円を出荷した。地場企業は甲賀、日野を中心に17社

あり、上がり下がりはあるがここ10年で生産額は180%増えた。他に県内に進出している企業の生産額を加えると計2105億円(13年)になる」

地場企業はどんな医薬品を生産しているのか。

「3社が病院向けの医療用。残り14社がドラッグストアや薬局向け、配置薬など一般用を製造している。医療用はジェネリックが好調で2社だけで約200億円になる。一般用14社の売り上げは横ばいだが大手にまねのできない特色を出している。一般用のばんそうこうやのどスプレー、トローチ剤などトップシェアやそれに近いものがあるが、人口減少に入り、地場企業の販路拡大をどうするかが課題になっている」

—そのために2012年から組合で海外医療品事情視察を始めたのか。

「理事長に就任した4年前から年1回の割合で始めた。

タイ、ベトナム、インドネシア、ミャンマーを訪れ、現地の企業が組合として訪問すると対応してくれる。販売の糸口ができ、数社が成果を挙げている」

—国内の現状は。

「高齢者人口はまだ増えているので10年先までは何とかなる。海外の観光客にも日本の薬は人気がある。しかし将来、売るところがなくなるかもしれないので『滋賀の薬を

海外に』の大きな目標を達成したい」

—国内で望むことは。

「医薬品はすべて厚労省に申請して許可をもらう。国は医療費抑制のためにジェネリックに力を入れているが、スイッチOTC薬はなかなか増やさない。この薬は医療用として使用が認められている成分のなかで比較的副作用が少なく、安全性の高い成分を和してほしいのだが」



純米吟醸酒「猿飛SASUKI」新発売 北島酒造(湖南市針)が真田幸村に仕えた「真田十勇士」の1人、猿飛佐助をモチーフに開発した「写真」。

甲賀流の忍者とされる佐助は、湖南市吉永の三雲城ゆかりの戦国武将・三雲賢持の子、賢春だったとする説がある。NHK大河ドラマ「真田丸」にちなみ、郷土の歴史に思いをはせてもらおうとつくった。

近江の酒米だけでつくり、ふくよかで上品な味わいが楽しめる酒に仕上げたという。720

「きなことあげはん(1250円)」。エフエム滋賀のリスナー10人と3社の担当者が企画会議を重ねてアイデアを出し合った。販売は28日まで。

長浜市のご当地グルメ「イタリアン焼きそば」をヒントにホッパック風に仕上げた「イタリアン焼きそば風ドッグ」(140円)と、揚げパンに県産大豆のきなこ砂糖をまぶした

「ミッ入り1500円(税別)。問い合わせは北島酒造0748(72)0012。」

滋賀のご当地グルメ「コロパパン限定販売 エフエム滋賀とパン製造販売の神戸屋、コンビニエンスストアチェーンのサークルKサンクスが2種類のパンを共同開発し、三重県の一部を含む近畿2府4県のサークルKサンクス計810店舗で販売を始めた。